



2020年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月13日

上場会社名 株式会社アドバンスクリエイト

上場取引所 東

コード番号 8798 URL <https://www.advancecreate.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 濱田 佳治

問合せ先責任者 (役職名) 理事 経営企画本部長 (氏名) 横山 欣二 TEL 06-6204-1193

四半期報告書提出予定日 2020年8月13日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期第3四半期の連結業績（2019年10月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第3四半期	7,662	△0.3	757	△20.9	700	△23.2	430	△30.0
2019年9月期第3四半期	7,687	10.8	957	17.0	912	14.8	614	12.7

(注) 包括利益 2020年9月期第3四半期 488百万円 (△9.1%) 2019年9月期第3四半期 537百万円 (△5.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第3四半期	41.19	-
2019年9月期第3四半期	59.31	58.95

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第3四半期	9,580	5,045	52.6
2019年9月期	8,168	4,591	56.2

(参考) 自己資本 2020年9月期第3四半期 5,040百万円 2019年9月期 4,590百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	-	25.00	-	25.00	50.00
2020年9月期	-	25.00	-		
2020年9月期(予想)				25.00	50.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2020年9月期の連結業績予想（2019年10月1日～2020年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,400	10.0	1,570	16.7	1,500	15.6	1,000	18.4	95.42

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期3Q	10,999,100株	2019年9月期	10,999,100株
② 期末自己株式数	2020年9月期3Q	401,539株	2019年9月期	667,489株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年9月期3Q	10,439,183株	2019年9月期3Q	10,351,898株

期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、「従業員持株会支援信託ESOP」制度に係る信託財産として、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）が所有する当社株式及び「株式給付信託（J-ESOP）」制度に係る信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が所有する当社株式を含めております。なお、2020年7月27日付で資産管理サービス信託銀行株式会社、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社およびJTCホールディングス株式会社が存続会社を日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社とする吸収合併を行い、統合会社の商号が「株式会社日本カストディ銀行」となっております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2019年10月1日～2020年6月30日)におけるわが国経済は、内外における新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、外出制限による個人消費の低迷や生産の停滞、輸出の大幅な減少が見られ、成長率は急激に低下しました。

このような状況下、当業界では、個人の生活防衛意識の高まりから、保険へのニーズが急速に増加しております。当社は、5G時代の到来を睨んで、従前より対応を進めてきた「オンライン面談」により、対面相談と同水準のサービスを実現し、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止しながら、真にお客様の役に立つ情報の提供とコンサルティングの実現を図っております。

当社グループは「人とテクノロジーを深化させ進化する会社」を標榜し、あらゆる保険ニーズに対応できる「保険業界のプラットフォーム」を構築すべく、日々新たな挑戦を行ってまいりました。そして、OMO(Online Merges with Offline.=オンラインとオフラインの融合)時代に相応しいエコシステム(ビジネス生態系)を引き続き構築してまいります。

また、保険業界の共通プラットフォームシステム(Advance Create Cloud Platform、以下「ACP」)の開発も併せて進めてまいります。ACPは将来的に保険会社と乗合保険代理店、お客様の情報を相互に連携し、保険商品の検討・お申込み・保全手続きを一括して管理・運用できるようになります。それにより、保険会社・保険代理店・お客様全員の事務負担の大幅な軽減を実現いたします。

現在、ACPの主要機能である顧客管理システムと申込共通プラットフォームシステムをそれぞれ「御用聞き」、「丁稚(DECHI)」として販売しております。また、保険証券管理アプリ「folder」の普及も目指しております。これらのシステムを当社以外の保険代理店に提供することで、保険募集現場における生産性・募集品質の向上と、協業事業の拡大を目指します。

さらに、当社はSNS、SMS等のテキストコミュニケーションツールを経由することにより、お客様とのよりスムーズなコンタクトを実現しております。このようなノウハウをベースとし、他の保険会社や保険代理店の顧客に対する保全業務を請け負うBPO事業にも活用し、業容の拡大、および保険業界の課題であるCRMの改善にも取り組んでいきたいと考えております。

これらの新たな施策を拡充させるとともに、ガバナンス体制およびコンプライアンス体制の一層の充実や、情報セキュリティ体制の強化を継続し、保険業法や個人情報保護法等の関係法令に適応した保険募集管理体制の強化に全社的に取り組み、管理体制面において積極的に経営資源を投下してまいります。

これらの取り組みの結果、メディア事業におきましては、当社の強みであるWEB広告の運用ノウハウを活かし、業容拡大を図り増収となりました。また、再保険事業におきましても順調に推移いたしました。一方、保険代理店事業におきましては、OMO戦略の一環として推進している「オンライン面談」について従業員の教育研修に時間を要し、新型コロナウイルス感染症の影響による実面談(来店、訪問等の実際にお会いしての面談)の件数減少を補えなかったことから減収となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,662百万円(前年同期比0.3%減)、営業利益は757百万円(前年同期比20.9%減)、経常利益は700百万円(前年同期比23.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は430百万円(前年同期比30.0%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、前連結会計年度より、これまで「保険代理店事業」に含まれていた「ASP事業」の重要性が高まったことから、独立した報告セグメントとして扱うことといたしました。

これにより、前連結会計年度より、「保険代理店事業」、「ASP事業」、「メディア事業」、「再保険事業」の4つを報告セグメントとして開示しております。

(保険代理店事業)

OMO戦略の一環として推進している「オンライン面談」について従業員の教育研修に時間を要し、新型コロナウイルス感染症の影響による実面談(来店、訪問等の実際にお会いしての面談)の件数減少を補えなかったことにより、減収減益となりました。

この結果、保険代理店事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,405百万円(前年同期比1.3%減)、営業利益は458百万円(前年同期比19.9%減)となりました。

(ASP事業)

乗合保険代理店へのACP販売が好調に推移し、増収となりました。一方で利益面においては、販売費及び一般管理費が増加したため、減益となりました。

この結果、ASP事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は140百万円(前年同期比28.4%増)、営業利益は11百万円(前年同期比71.7%減)となりました。

(メディア事業)

保険選びサイト「保険市場(ほけんいちば)」への広告出稿が引き続き好調に推移し、増収となりました。一方で利益面につきましては、広告原価、販売費及び一般管理費が増加したため、減益となりました。

この結果、メディア事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,696百万円(前年同期比36.3%増)、営業利益は193百万円(前年同期比29.0%減)となりました。

(再保険事業)

売上高が引き続き順調に推移し増収増益となりました。

この結果、再保険事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は631百万円(前年同期比9.6%増)、営業利益は92百万円(前年同期比31.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産合計)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,412百万円増加し9,580百万円(前連結会計年度末は8,168百万円)となりました。

流動資産は、前連結会計年度末比954百万円増加しましたが、これは主に、現金及び預金の増加826百万円等によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末比432百万円増加しましたが、これは主に、投資その他の資産の増加258百万円等によるものです。

(負債合計)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ958百万円増加し4,534百万円(前連結会計年度末は3,576百万円)となりました。

流動負債は、前連結会計年度末比52百万円増加しましたが、これは主に、未払金の増加217百万円、1年内償還予定の社債の増加200百万円および未払法人税等の減少319百万円等によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末比905百万円増加しましたが、これは主に、社債の増加800百万円等によるものです。

(純資産合計)

純資産は前連結会計年度末比454百万円増加しましたが、これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益430百万円の計上、剰余金の配当による減少538百万円および自己株式の処分による増加503百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年11月11日付の「2019年9月期決算短信」にて公表しました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	678,658	1,505,114
受取手形及び売掛金	1,001,654	1,808,992
未収入金	2,785,215	1,770,785
その他	548,064	882,898
流動資産合計	5,013,592	5,967,790
固定資産		
有形固定資産	583,674	648,309
無形固定資産		
ソフトウェア	567,425	551,949
その他	7,513	132,078
無形固定資産合計	574,939	684,027
投資その他の資産		
投資有価証券	219,324	305,765
差入保証金	635,850	678,438
保険積立金	691,932	707,121
繰延税金資産	298,340	242,960
その他	150,419	319,927
投資その他の資産合計	1,995,867	2,254,213
固定資産合計	3,154,482	3,586,549
繰延資産	—	26,372
資産合計	8,168,074	9,580,713
負債の部		
流動負債		
1年内償還予定の社債	—	200,000
未払法人税等	324,388	4,806
未払金	911,581	1,128,995
賞与引当金	181,676	92,247
資産除去債務	—	6,777
その他	1,021,395	1,058,956
流動負債合計	2,439,041	2,491,783
固定負債		
長期借入金	167,630	147,190
社債	—	800,000
退職給付に係る負債	331,245	359,286
資産除去債務	194,123	207,828
その他	444,663	528,792
固定負債合計	1,137,662	2,043,097
負債合計	3,576,703	4,534,881

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,915,314	2,915,314
資本剰余金	352,328	347,096
利益剰余金	2,424,075	2,315,924
自己株式	△1,139,440	△635,701
株主資本合計	4,552,277	4,942,634
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	38,693	97,556
その他の包括利益累計額合計	38,693	97,556
新株予約権	400	5,640
純資産合計	4,591,371	5,045,831
負債純資産合計	8,168,074	9,580,713

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
売上高	7,687,997	7,662,671
売上原価	2,254,405	2,314,259
売上総利益	5,433,592	5,348,411
販売費及び一般管理費	4,476,487	4,590,913
営業利益	957,104	757,498
営業外収益		
受取利息及び配当金	3,779	2,977
未払配当金除斥益	450	883
受取保証料	6,135	6,135
その他	1,283	4,974
営業外収益合計	11,648	14,970
営業外費用		
支払利息	2,354	8,853
支払保証料	3,980	324
支払手数料	49,316	61,123
その他	713	1,381
営業外費用合計	56,365	71,683
経常利益	912,387	700,785
特別利益		
新株予約権戻入益	—	400
特別利益合計	—	400
特別損失		
新型コロナウイルス感染症による損失	—	63,017
特別損失合計	—	63,017
税金等調整前四半期純利益	912,387	638,168
法人税、住民税及び事業税	286,274	178,029
法人税等調整額	12,072	30,107
法人税等合計	298,346	208,137
四半期純利益	614,041	430,031
親会社株主に帰属する四半期純利益	614,041	430,031

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	614,041	430,031
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△76,277	58,863
その他の包括利益合計	△76,277	58,863
四半期包括利益	537,763	488,894
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	537,763	488,894
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、自己株式の処分等に伴い、自己株式が503,739千円減少しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において自己株式は635,701千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年10月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	保険代理店 事業	ASP事業	メディア事業	再保険事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,904,151	109,372	1,098,403	576,069	7,687,997	—	7,687,997
セグメント間の内部 売上高又は振替高	586,016	—	146,227	—	732,244	△732,244	—
計	6,490,168	109,372	1,244,631	576,069	8,420,241	△732,244	7,687,997
セグメント利益	572,772	39,626	272,065	70,840	955,304	1,800	957,104

(注)1. セグメント利益の調整額1,800千円にはセグメント間取引消去1,800千円が含まれております。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年10月1日至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	保険代理店 事業	ASP事業	メディア事業	再保険事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,608,637	140,404	1,282,328	631,301	7,662,671	—	7,662,671
セグメント間の内部 売上高又は振替高	797,348	—	414,407	—	1,211,756	△1,211,756	—
計	6,405,985	140,404	1,696,735	631,301	8,874,427	△1,211,756	7,662,671
セグメント利益	458,629	11,224	193,035	92,810	755,698	1,800	757,498

(注)1. セグメント利益の調整額1,800千円にはセグメント間取引消去1,800千円が含まれております。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、これまで「保険代理店事業」に含まれていた「ASP事業」の重要性が高まったことから、独立した報告セグメントとして扱うことといたしました。

これにより、前連結会計年度より、「保険代理店事業」、「ASP事業」、「メディア事業」、「再保険事業」の4つを報告セグメントとして開示しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。